

○1番（森山一政議員） 1番森山一政です。議長より発言のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問を始めさせていただきます。

5月の市議会議員補欠選挙におきまして、議員になりました。市民の皆様の声を真摯に受けとめ応えられるよう誠心誠意励んでまいります。議員各位並びに執行部の皆様におかれましては、よろしく願いいたします。

1月1日に発足した第4次安倍内閣、改造内閣において、地元選出の梶山弘志衆議院議員が第3次改造内閣に続き、地方創生担当大臣に就任されました。地方の活力を一段と高めるために、大いに力を発揮してもらいたいと思います。

また、8月の茨城県知事選挙におきましては、大井川和彦知事が誕生いたしました。経済産業省での行政経験に加えて、IT企業のマイクロソフト株式会社等のグローバル企業での経験も豊富に積んだ方です。県北、県南の格差解消の課題はもとより、これからの時代の茨城県の躍進に大いに尽力していただけるものと期待をしております。

梶山大臣と大井川知事には、国・県・市の一層の連携強化を通じて、夢のある常陸太田市、常陸太田市の課題解決のために手腕を発揮していただきたいと願っております。

内閣総理大臣の所信の挨拶で、成長と分配の好循環メカニズムの提示として、女性も男性もお年寄りも若者も一度失敗を経験した方も障害や難病のある方も家庭や職場で、地域で、あらゆる場で誰もが活躍できる、全員参加できる、みんなの個性と多様性が尊重される職場で、それぞれの希望を持って、それぞれが能力を発揮でき、生きがいを感じることができる社会、強い経済の実現に向けた取り組みが求められております。成長の果実によって、子育て支援や社会保障の基盤を強化して、それがさらに経済を強くする成長と分配の好循環を生み出していく、新たな社会システムが作られる激変する荒波の中であって、積極的に平和主義の旗をさらに高く掲げ、日本の真ん中で輝かせる、そして、子どもこそが我が国の未来そのもの、子どもたちの誰もが家庭の事情にかかわらず、未来に希望を持ち、それぞれの夢に向かって頑張る日本を創り上げると、一億総活躍社会の中で述べております。

私は常陸太田市議会議員になりまして、何が足りないのかを考えてみました。1年間で約700人の人口が減少しています。子どもの生まれる数が1年間で約260名、働く会社が少ない、泊まる場所が少ない、南北につながる道路は国道349号1本だけです。交通の便が、バス・電車ともに少なく、小学校、中学校、高校もともに少なくなってきました。

常陸太田市を魅力的な市にするには、どうしたらいいのか考えました。常陸太田市には子育て支援しようづるタウン、他県から視察に来て勉強するほど充実した子育て支援があります。歴史と自然と文化があります。佐竹寺や西山荘といった佐竹藩、徳川藩の遺産の数々。茨城県で一番の広い土地、約372キロ平方メートルを持ち、自然豊かな環境、山や久慈川、山田川、里川、源氏川等大きな川があります。莫大な水量があります。川の石、砂も豊富で、考え方を変えれば資源の利活用もできます。常陸太田市、南の玄関口には、すばらしい道の駅があります。今年の7月21日に国土交通省の重点道の駅として、「道の駅ひたちおた」が茨城県の中で13番目にオープンし、1年5カ月が過ぎました。8月4日には100万人を達成し、順調に推移してお

り、10月には来場者数は120万人に達しております。

水戸より349号線を北に向かい、久慈川にかかる幸久大橋を渡ると、道の駅があります。駐車場が広く、遊具設備があり、子どもたちの遊ぶ場所があり、ドライブの休憩所にはもってこいの場所です。ここは、常陸太田の観光のゲートウェイであり、ここを起点に市内の観光地はもとより、県北各地域の観光地に容易にアクセスすることができます。私は、今後市の地域活性化の拠点としてさらに発展させるための努力を市民と行政が一体となって魅力あるものにしなければならないと考えております。

最初は、道の駅について、市の観光の一層の活性化に向けた取り組みについて質問させていただきます。

1点目は、市にはブドウ、お米、お酒、ソバ等の優れたお土産品がありますが、ここで満足することなく購買意欲をそそるブランドは常陸太田市にしかないオリジナル商品の充実を図っていく必要が重要であると考えています。市は新たなお土産品の開発に今後どのように取り組んでいくのかお伺いいたします。

2点目は、広々としたレストランでの地元野菜を活用したビュッフェ形式ランチ、フードコート、地元のソバ名人が作るソバ、スナックメニュー等について利用者の反応はどのようなものであるのか。また、開店時間、閉店時間の考え方について。早く閉まるので会社帰りになかなか利用できないとの意見も伺っております。そこで、今後、利用者の目線に立って、どのような改善、工夫を行っていくのかお伺いいたします。

3点目は、道の駅において、集客やにぎわいづくり、市民の交流の場を継続的に作っていく必要があると考えております。さらには、北茨城や大子から道の駅へ呼び込むことも重要であると考えております。常陸太田ならではの工夫を凝らしたオリジナルイベント等を企画していくことが重要であると考えますが、今後の取り組みについてお伺いいたします。

次に、国土交通省による自動運転システム実証実験についてお伺いいたします。

11月18日より、道の駅ひたちおおたを拠点とした自動運転サービス実証実験が始まりました。高齢化が進む中山間地域での交通手段や物流を確保するのが狙いで、25日まで8日間、安全性、コスト面、公共交通等の相乗効果などを検証することを目的として行われました自動運転システムには道路に埋設したセンサーを感知して走るものや、GPSによって自動車の位置を判断しながら走るタイプがあります。今回の実験は道路にセンサーを埋設して走るタイプで、2020年の実用化を目指して、全国道の駅13カ所で順次実験を進めていくとのこと。技術的な検証を行うため、国土交通省が選んだ地域指定型と地域からの実現性の期待ができる8カ所公募型での実験は常陸太田市が初めてになります。

初日は、道の駅で開始式が石井国土交通大臣、梶山地方創生担当大臣、大井川知事、多数の方々の出席で行われました。改めて、2020年実現を目指すとの心強い言葉をいただきました。夢が広がるシステムであります。多くの方が関心を持っており、私もそれ以上に関心を持っております。

現時点では、運転をサポートしてくれる機能を持つ段階で、安全な自動運転車は実現していま

せんが、その技術はレベル4に着実に進歩していると思います。運転を支える技術として、センサーがあり、オートパイロットを搭載した自動車、カメラビュー、レーダーシステムは現在の自動車にも搭載されています。

今回の国土交通省による自動運転実験の検証結果を先取りして、今後の高齢者対策等にうまく取り入れていくことが極めて大切だと考えております。

そこで、1、実証実験の検証内容について。2、実証実験の検証結果並びに今後の取り組みについての2点についてお伺いいたします。

次に、久慈川サイクリングコースと道の駅ひたちおおたとのコラボについてお伺いいたします。道の駅近くに久慈川サイクリングコースがあります。春には菜の花が咲き、きれいな景色です。秋には久慈川、山田川に沈む夕日は何とも言えません。ただ、現在は手入れが十分にはされていないように思われます。一定の整備を行い、きれいなサイクリングコースにすれば、多くのサイクリング愛好者が集まり、利用してくれるものではないかと考えております。健康のためにもよいし、運動にもなります。日立市、東海村との連携をうまく図れば、交流人口の増大にもつながり、コース近くの道の駅ひたちおおたを利用する方も増えて、徐々に知名度も上がり、相乗効果が生まれてくるものと考えます。

そこで、1、サイクリングコースの現状についてどのように考えているのか。

2、道の駅に来てもらうためのさらなる活性化に向けた取り組みについての2点についてお伺いいたします。

最後になりますが、常陸太田市と水戸方面をつなぐ国道349バイパスの幸久大橋の4車線化整備が現在進められており、来年夏ごろに完成するとお聞きしておりますが、当市においてさらなる地域活性化等が図られるものと大いに期待しているところです。

そこで、国道349号線にかかる県道166号線、和田上河合線の道路整備についてお伺いいたします。県道166号線は幸久地区を始め、水府、金砂郷地区に住まいの方々が水戸市、ひたちなか市、東海村方面等に向かう際に利用している主要道路であります。国道349号バイパスまで隣接されていないことから、現在国道349号上河合交差点から一度北に向かい、「道の駅ひたちおおた」南側の市道1051号を通過して、国道349号バイパスに出ている状況です。このような中で、県道166号線の整備につきましては、国道349号バイパス4車線化後に車の流れや交通量を勘案してご検討していただけるものと認識しております。

当面の対策として、現在の上河合交差点を県道166号線と国道349号が1路線となるよう局部改良していただければ、信号待ち時間が解消し、利用者の利便性が大きく向上するものと考えておりますが、市のご所見をお伺いいたします。

また、県道166号線と和田上河合線から国道349号バイパスまでのアクセス道路として、上河合町地内のガソリンスタンド前の市道1051号線を利用されている方が、朝夕の通勤時間を始め、日中においても多い状況になっております。当路線は住宅地を通る狭い市道であり、地域住民の日常生活に支障をきたしております。市として安全対策を図る必要があると考えますが、ご所見をお伺いいたします。

以上で1回目の質問を終わります。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。農政部長。

〔武藤範幸農政部長 登壇〕

○武藤範幸農政部長 市の活性化の拠点についての道の駅ひたちおおたに係る3点のご質問にお答えいたします。

まず、1点目のオリジナル商品や新たなお土産品の開発についてでございますが、道の駅ではオープン当初より市の認証特産品となつてございます53品を常設販売するとともに、シーズンや旬にあわせて特設コーナーを設置するなど、本市における独自性の高い商品のPRや販促活動を展開しているところでございます。

また、道の駅ひたちおおたのオリジナル商品や新商品といたしましては、地場産しょうゆを活用したケーキや赤土の菜種油など21品が商品化されるとともに、各テナントやフードコートにおきましても、本市の在来品種や農産物を活用したお土産品やパン、飲食メニューなどを提供するなど、道の駅ひたちおおたとしてのオリジナリティを創出してきているところでございます。

これら新商品の開発につきましては、これまでも市独自の新商品開発に係る支援制度を活用した事例も多く、今後ともこれら支援制度の活用などを含め、新たな新商品開発や既存商品の高付加価値化などを促進するとともに、そうした商品を道の駅ひたちおおたから市内外に発信することにより、市及び道の駅ひたちおおたの魅力アップにつなげてまいります。

次に、2点目の利用者の目線に立った改善工夫についてでございますが、道の駅ひたちおおたではお客様の声を真摯に受け止め改善を図るために、施設入り口やフードコート、レストランの客席にお気づき箱を設置し、これまでにご意見をいただいた中で、利用者の安全性の確保やサインの改善、またメニューや接客対応など、改善可能な事項について迅速に対応してきたところでございます。

また、月1回のテナント会議の中でも、お客様からの声を道の駅全体の課題として情報を共有した中で、お客様へのサービスの向上を図っているところでございまして、今後とも引き続きお客様の視点に立った運営を心がけていくよう、道の駅と連携をしてまいります。

なお、営業時間につきましては、お客様の利便性はもとより、経営面の観点からも、時間帯別の売り上げ状況やコスト面なども視野に入れつつ、運営主体であります常陸太田産業振興株式会社と協議、調整をしてまいります。

次に、3点目の集客、にぎわい、交流の場づくりについてでございますが、道の駅ひたちおおたにおけるイベントは、道の駅への集客や本市への誘客、情報発信等交流人口の拡大を図る上でも、重要であると考えてございます。

これまでも、イベント広場の活用やレストラン、各テナントとの連携等により、季節や歳時記、旬などに応じた食や体験、交流等をテーマとした各種イベントや市民団体などにより発表や展示など、また、お客様への感謝祭など多種多様なイベントを開催するとともに、これらイベントの内容を新聞やチラシ、広報誌などを通じ、事前に周知するなど、集客、にぎわいづくりに取り組んできたところでございます。今後とも、運営主体であります常陸太田産業振興株式会

社を中心に、各テナントや市民との連携のもと、市民の皆様方はもとより、市外からも多くの皆様方に道の駅ひたちおおたに足を運んでいただけるような魅力あるイベントの企画、実施を支援するとともに、道の駅ひたちおおたはまだ創業期であることから、しっかりと地に足を付けた運営ができるよう道の駅と連携をしてまいります。

○益子慎哉議長 政策企画部長。

〔綿引誠二政策企画部長 登壇〕

○綿引誠二政策企画部長 道の駅ひたちおおたを拠点とした自動運転サービス実証実験についてのご質問にお答えいたします。

本市におきまして、去る11月19日から25日までの7日間にわたり行われました自動運転サービス実証実験につきましては、議員ご発言のとおり、高齢化が進む中山間地における人流及び物流の確保のため、道の駅ひたちおおたなど地域の拠点を核とする自動運転サービスの導入を目指し、公募型としては全国で初めて実施されたものでございます。

実証実験の実施に当たりましては、地元町会の方々を始めまして、多くの関係者のご尽力、ご協力をいただきまして、事故などもなく無事に実証実験を終了することができたところでございます。

始めに、実証実験の検証内容についてお答えいたします。

本市において行われました実証実験の目的は大きく4つございまして、1つとして、自動運転サービスの社会実走に向けた道路、交通、地域環境、コスト、社会受容性、地域への効果等の内容について検証すること。

2つといたしまして、高速バス等の広域交通と連携しながら、自動運転での地域内の生活の足や物流確保における技術的な検証をすること。

3つといたしまして、既存の道の駅から高速バスを活用した貨客混載事業の社会受容性について検証すること。

4つといたしまして、将来のビジネスモデルとしての成立性を検証するための課題を抽出することとされております。

これらの検証のため、7日間の実験では、自動運転車両の走行実験を始めといたしまして、高速バスを活用した貨客混載と連携した農産物の集荷実験、さらに道の駅への宅配便の集荷発送実験、さらには道の駅での路線バスへの乗り継ぎ実験などが実施されたところでございます。

また、自動運転技術への信頼性や乗り心地等についても検証するため、自動運転車両にご試乗いただきましたモニターの方々に対しまして、アンケート調査も実施したところでございます。

続きまして、実証実験の検証結果及び今後の取り組みについてのご質問にお答えいたします。

今回、自動運転車両によりまず走行実験が行われる地域は、国の指定による地域指定型が5カ所、本市と同様に公募により指定された公募型が8カ所ございまして、本年度内に順次実験が行われることとなっております。実証実験の検証につきましては、これら全ての地域での実験終了後に実験データ等を分析し、来年の夏ごろまでに取りまとめがされる予定となっております。そのため、現時点では、詳細な検証結果についてはご説明することはできませんが、市が現場にて

実証実験車両にご試乗いただいた方々からお聞きしたご意見をご紹介しますと、「路線バスのほかに自動運転サービスの交通網が整備されるとよい」「自動運転サービスにより高齢者の外出機会が増え、地域の活性化や地元の交流が増えることを期待する」「乗り心地がよく静かだった」「免許を返納した高齢者も多いため、細目に地域を回るなどして利便性を上げてほしい」などの声が聞かれたところでございます。

最後に、今後の取り組みについてでございますが、当面の予定といたしまして、年内に国土交通省においてアンケート結果を取りまとめ、取りまとめ次第、その結果を今回実験にご協力いただいた道の駅ひたちおおた近隣の町会の皆様及び農産物出荷者の方々にフィードバックをいたしまして、座談会を開催するとともに、本市における自動運転サービスの今後のビジネスモデルについて検討を行うことが予定されているところでございます。

本市といたしましては、関係機関等と連携を密にいたしまして、引き続き自動運転サービスの早期実現に向け努めてまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 教育長。

〔中原一博教育長 登壇〕

○中原一博教育長 久慈川サイクリングコースの現状についてのご質問にお答えいたします。

久慈川サイクリングコースは、昭和40年代後半に日立市留町から常陸太田市大方町までの久慈川・山田川の堤防天端及び堤防下を利用して、16.2キロメートルが設置されました。その設置に伴いまして、本市と日立市、そして東海村並びに関係団体で久慈川サイクリングコース管理運営協議会を組織し、3自治体の負担金により定期的な除草と破損個所の補修、洪水等でコース上に堆積した土砂の撤去等の維持管理を行っているところでございます。

現在は、サイクリングコースが堤防下に設置されている区間では、舗装状態や幅員、景色等において、より環境がよく、走りやすい堤防天端の管理用道路等を利用し、堤防の下へ降りたり上ったりしないで、走行している方が多い状況となっております。なお、この管理用道路は国土交通省常陸河川工事事務所が管理しておりまして、一般車両の通行は制限されますけれども、自転車については自由に走行してもよいこととなっております。

続きまして、道の駅ひたちおおたとの連携によるさらなる活性化についてお答えいたします。

久慈川サイクリングコース管理運営協議会で運営している無料の自転車貸し出し場所が、日立市留町でございます。その近くには道の駅日立おさかなセンターがあり、また、本市の道の駅ひたちおおたもサイクリングコースの近くに設置されておりますので、サイクリングコースからそれぞれの道の駅ひたちおおたへ立ち寄っていただくための案内、誘導、そして安全面を含め、道の駅を活用した周遊コースの研究等、関係機関と協議を進めまして、地域の活性化につながる方策を検討してまいります。

○益子慎哉議長 建設部長。

〔真中剛建設部長 登壇〕

○真中剛建設部長 県道166号線の整備について。

1点目の国道349号につなげる当面の取り組みについて。2点目の住民の安全対策について。

この両ご質問は関連していると思われますので、一括してお答えさせていただきます。

県道166号線一般県道和田上河合線でございますが、当県道につきましては、これまで県政要望等におきまして取り上げさせていただいておりますが、現在のところは県からは国道349号バイパス4車線化の後、地域全体の交通量やその流れを注視しながら対応を検討したい旨でございます。

当市といたしましては、幸久橋が通行どめになっていることから、水府、金砂郷方面から水戸方面に向かう交通の円滑な誘導を図るためには、幸久小学校前と道の駅の南側市道1051号線とを結び、JRを跨線橋で通過する新たなルートの構築を行うべきとの認識で調査、調整を進めているところでございます。ただし、この新たなルートの構築には、JRとの協議などの課題もあり、短期的に効果を出すことは難しいものと思われます。市としましては、この新ルートの事業化に向けた準備、協議を県・JRを始めとした関係機関に行うとともに、ただいまの議員からのご意見も十分に尊重し、実体の交通量やその流れに沿った当面の対応もあわせて検討していきたいと思っております。

次に、2点目の住民の安全対策のご質問でございます。先ほどの交通事情の影響から国道349号の現道とバイパスの両国道間に位置する下河合町の住宅地内に朝夕一部の通過交通が流入してしまっている状況でございます。これまで、小学校、警察署、地元町会さんと協議を重ね、通学路については、通学時間帯の交通規制を行い、また、平成26年度から順次狭隘区間の整備を進めるなど、安全確保に努めてまいった結果、一定の効果は見られるものの、当対策のみでは根本的な解決は難しい状況になってきているとも思われます。

このような状況もあわせて考慮しますと、内容的には1点目のご質問と重複しますが、県道166号線であります和田上河合線における新ルートの構築を進め、当面の交通対策の検討もあわせて進めたいと考える次第でございます。

○益子慎哉議長 森山議員。

〔1番 森山一政議員 質問者席へ〕

○1番（森山一政議員） 各項目ごとのご答弁をいただきましてありがとうございます。

それでは、2回目の質問をさせていただきます。

大項目1の（1）道の駅について、再質問をいたします。①来場者数ですが、8月には100万人を達成しましたが、本年9月以降の売り上げと来場者数の状況についてお伺いいたします。

○益子慎哉議長 農政部長。

○武藤範幸農政部長 道の駅ひたちおおたの9月以降の状況でございますが、9月は売上高が約7,700万円、レジ通過者が約8万人。10月は特に土日曜日に台風や雨が多かったことなどもございまして、売上高が約6,200万円、レジ通過者が約6万7,000人。11月は売上高が約7,500万円、レジ通過者が約8万人となっております。

○益子慎哉議長 森山議員。

○1番（森山一政議員） ありがとうございます。数において、あと、売り上げ等理解いたしました。また、オリジナリティの新商品の開発をしていること、高付加価値を付けるために支援

制度があり、開発していることがわかりました。この道の駅ひたちおおたに来たら、このようなものがある。そう思う商品の開発が必要だと思います。例えば、龍ヶ崎市のコロッケとか、宇都宮の餃子などインパクトがある商品の開発も必要だと考えています。考えていることがあればお伺いいたします。

○益子慎哉議長 農政部長。

○武藤範幸農政部長 インパクトのある新たな商品開発につきましては、非常に重要であると考えておりまして、議員ご発言のとおり、町おこしの要素も高いことから、道の駅のみならず、市観光物産協会や市商工などとも連携し取り組んでいく必要があるものと考えてございます。

○益子慎哉議長 森山議員。

○1番（森山一政議員） 内容を理解いたしました。

次、②改善、工夫についての質問ですが、業者さんが店舗を構えているところは6時前に閉店しているように見受けられます。レストランは独自に経営しているので、金曜、土曜日などは独自性を持ち、少し長く営業していれば、お客様も関心を持つのではないかと思います。ブログなどの投稿を見ていると、「何時ごろまで営業をしているのかよくわからない」という意見があるようです。ひと目でわかるようにすればよいのにと考えておりますが、この点についてご所見をお伺いいたします。

○益子慎哉議長 農政部長。

○武藤範幸農政部長 営業時間の周知につきましては、再度周知徹底をするよう指導してまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 森山議員。

○1番（森山一政議員） 内容理解いたしました。よろしく申し上げます。

③いろいろと考えたイベントをしていることがよくわかり、努力しているなど感じておりますが、オープン当初ビヤガーデンやお月見の会等をしてまいりました。なぜか単発で終了し、寂しく感じております。

この時期にはこのイベント、この季節にはこのイベントが開催していると認識を持ち、楽しみにできることが大事だと思います。地域の人々の憩いの場づくりにはもってこいの企画だったような気がします。地域の人々が集まり、ほかから来る方々も集まり、楽しめる継続的に行われていく企画を考えてもらいたいと思いますが、この件についてご所見をお伺いいたします。

○益子慎哉議長 農政部長。

○武藤範幸農政部長 議員ご発言のとおり、市民の皆様に道の駅ひたちおおたに親しみを持っていただき、気軽に集える交流の場となることが重要でありますことから、今後とも季節や旬などに応じた魅力ある恒例あるいは継続的なイベントの企画を運営主体と連携し、取り組んでまいります。

○益子慎哉議長 森山議員。

○1番（森山一政議員） ありがとうございます。大項目1について理解いたしました。よろしく申し上げます。

それでは、大項目2の国土交通省による自動運転サービス実証実験についてですが、実験の検証を分析し、最終的には来年夏ごろまでに国土交通省において、取りまとめがされると言っていました。公募型で選ばれたところはビジネスモデルとして高い実現性が期待できるところとなっているようですので、近未来のシステムが現実的になるように今後に期待したいと思います。

大項目2については、理解いたしました。

それでは、第3項目、3の久慈川サイクリングコースについてですが、現在は3自治体が負担をして管理している。洪水等によりコースに堆積した土砂等の撤去、草刈等の維持管理を行っているということで、現在は堤防の高い舗装された天端の景色のよい道路をサイクリングに使っているとのことですので、わかりました。サイクリングをしている人が道の駅を利用してくれる方法として、関係機関で話をして調査研究を進めるとのことですので、よろしく願いいたします。

項目4の県道166号線和田上河合線について、国道349号バイパスまでにつなげる長期の考え方はわかりました。ただ、経費もかかり、年数もかかり、線路の上に橋を架ける跨線橋は莫大な経費もかかると思います。当面の課題といたしましては、県道166号線と市道1051号線と旧国道349号のアクセス道路整備を考えてもらい、安全対策や大型トラック等がスムーズに流れるように既存の道路整備も進めていただきますよう要望いたします。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。